

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)
 2024年度の事業進捗状況管理表
 ※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

評価凡例
 A・・・大変良い (目標を大きく超えて達成できた) D・・・悪い (目標を達成できなかった)
 B・・・良い (目標を達成した) -・・・該当なし (当初から事業の予定がなかった)
 C・・・やや悪い (目標を一部達成できなかった)

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度達成状況	2024年度実績	2024年度評価	2024年度評価理由	備考
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(1) 住環境の改善	① 汚水管整備事業	下水道整備課	水洗化率100%(2026年度末)	①整備延長 L=1.7km ②合併処理浄化槽への切替え基数 10基	①市街化区域、市街化調整区域及び道路関連事業等に伴う汚水管整備工事実施 ・汚水枝線工事 L=1.7km ②事業内容 ・配管費補助の継続 ・維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進 ・啓発活動実施	①汚水幹線及び枝線の整備については、道路整備関連事業において用地取得が進まず下水道工事に着手できなかったことなどに伴い、計画延長よりも実施延長が短くなった。 整備延長 L=1.5km ②達成状況 ・合併処理浄化槽設置補助申請は1件、設置完了。 ・維持管理補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定(2026年度)を明記し送付。 ・設置補助案内を76件送付。 ・設置補助の啓発活動として、下水道事業計画区域外である地域に個別訪問を11件実施。	①整備延長 L=1.5km ②合併処理浄化槽への切替え基数 1基 ※水洗化率 99.5%	C	①計画していた汚水枝線工事が、一部実施できなかったため。 ②2022年度に公共下水道事業計画区域が拡大し、補助対象となる浄化槽基数及びくみ取り便槽が減少した影響を受け、補助金を活用した合併処理浄化槽の転換基数が目標を下回ったため。	
		② 未接続家屋への汚水管接続の普及啓発指導	下水道整備課		汚水管接続件数 150件	未接続家屋に普及活動を行う。また、下水道未接続理由を調査するとともに、公共下水道の目的や役割などについて丁寧な説明を行うことで汚水管接続を促す。	・2024年度に供用が開始された地区の対象となる77件に公共下水道接続の案内文書を送付し、28件について下水道接続済みとなった。 また、未接続家屋の所有者へ公共下水道接続を促す文書を送付するとともに、下水道接続時期を確認するためのアンケートを実施した。	汚水管接続件数 68件	C	目標の汚水管接続件数を達成しなかったため。	※2024年度案内接続28件(うち2件供用開始前接続) 2023年度以前供用開始普及対象接続40件
		③ グリーストラップの適正な維持管理方法の周知	下水道管理課	管清掃延長(緊急) 0.52km削減	管清掃延長 3.84km以下	油脂の流出による汚水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知していき、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らす。	6月の油脂点検調査の結果、油脂の付着が多いと判明した管きよ付近の飲食店等39店舗を抽出した。それらに対して店舗訪問等を行い、グリーストラップの適正な維持管理方法を周知した。 その結果、管清掃延長が目標値内に収まった。	管清掃延長 3.2km	A	管清掃延長の目標値3.84kmに対して、実際の管清掃延長が3.20kmとなり、0.64kmの大幅な削減ができたため。	グリーストラップとは、油脂等を下水道へ流入させないための装置
	(2) 河川の水質向上への貢献	① 下水処理水の水質向上	水再生センター		高効率散気装置導入率44%	現在、高度処理化されていない、又は高効率の散気装置が導入されていない水処理施設が鶴見川クリーンセンターには5池、成瀬クリーンセンターには6池ある。 2024年度はそのうちの1池(鶴見川クリーンセンター分)を高効率散気装置に交換する。	2025年3月に鶴見川クリーンセンターの1池を従来の散気装置から高効率散気装置に交換した。 これにより、高効率散気装置導入率44%を達成した。	高効率散気装置導入率44%	B	予定どおり目標を達成したため。	
			下水道管理課		水路点検延長 6km	水路の効率的かつ効果的な維持管理を推進するため、2023年度に策定した水路点検要領に基づき、水路修繕計画策定のための点検を実施する。	点検要領に基づき、対象水路の点検を6km実施した。また、点検結果を基に、水路構造物の劣化状況の取りまとめを行った。	水路点検延長 6km	B	予定どおり目標を達成したため。	
			下水道整備課		浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度利用率 60%	・浄化槽維持管理費補助制度の利用促進 ・三大義務(保守点検・清掃・法定検査)の未実施者に対する啓発活動実施	・浄化槽維持管理費補助金対象者に申請書等を1,371件送付。 ・浄化槽維持管理費補助制度の利用は618件。 ・法定検査受検促進のため、管理者に説明や案内を通知、受検件数は770件。(7条18件、11条752件) ・維持管理補助申請促進のため、法定検査実施済みの管理者に案内を649件送付。 ・三大義務の啓発活動として、下水道事業計画区域外の2022年以降三大義務いずれも未実施の管理者に啓発文書を送付した。	浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度利用率 45.1%(618/1,371)	C	三大義務実施者への補助金利用促進と未実施者への啓発活動により、一定の利用率を確保しているが、目標値には届いていないため。	

基本方針	目的	経営戦略事業 (小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度達成状況	2024年度実績	2024年度評価	2024年度評価理由	備考	
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(3) 地球温暖化対策と資源の循環利用	① 温室効果ガスの削減	水再生センター	第3計画期間 (2024年度末) 5ヵ年平均25%減	基準排出量より 2020~2024年度 平均で、25%削減	効率的な機器の運転等により、エネルギー使用を抑制し、温室効果ガス排出量の削減を図る。 成瀬クリーンセンターでは、安定的な高温（850℃）での汚泥焼却炉運転により、削減効果の高い温室効果ガス（N ₂ O）を定期的に削減する。 鶴見川クリーンセンターでは、町田市バイオエネルギーセンターで発電したCO ₂ 排出量が少ない電力を利用することでCO ₂ を削減する。	エネルギー起源CO ₂ の排出量としては、鶴見川クリーンセンターでは、省エネに努めて電力使用量を低減することに加え、町田市バイオエネルギーセンターで発電したCO ₂ 低排出の電力を利用することで、58.9%削減した。 成瀬クリーンセンターでは、高温焼却による削減と、再生可能エネルギー100%の電力を9月1日から導入したことで、CO ₂ 排出量を27.9%削減した。 これらの結果、両処理場合計で39.5%の削減を達成した。	基準排出量からの削減率 39.5%	A	基準排出量より25%以上の削減ができたため。		
		② エネルギー・資源の有効利用	水再生センター	再資源化率 99.5%	再資源化率 98.5%	下水処理場から発生する全ての産業廃棄物（汚泥焼却灰や沈砂汚泥など）について、建設資材などへの再資源化を実施する。 排ガスのエネルギー（熱・圧力）を活用した「過給式流動燃焼システム」の導入に向け、鶴見川クリーンセンター汚泥焼却設備更新工事として、1号焼却炉の機器製作及び据付工事を実施する。	2024年度の産業廃棄物発生量は種類ごとに ・汚泥焼却灰713.7 t ・沈砂汚泥36.5 t ・脱水汚泥1529.8 t ・廃プラ等のその他廃棄物62.8 tであった。これら全ての産業廃棄物を100%再資源化し、目標を達成した。 鶴見川クリーンセンター汚泥焼却設備更新工事及び関連する耐震補強工事については施工中であり、2025年度に完了予定である。	再資源化率 100%	B	再資源化率100%となり目標の98.5%以上を達成できたため。	2025年1月に町田市の脱水汚泥158.5 tを東京都・北多摩二号水再生センターで焼却処理したが、この脱水汚泥についても100%再資源化されている。	
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(1) 浸水対策の推進	① 浸水対策事業	下水道整備課	整備箇所数22箇所	整備箇所数 2箇所	・浸水対策として、雨水管整備工事実施 ①鶴岡4号雨水幹線その2及び枝線工事 ②本町田東1号雨水幹線その5工事（繰越分）	①工事起工前の調整に時間を要したことから、2025年1月契約及び2026年2月の完了を目指し工事を進めている。 ②2023年度の繰越原因となった既設他企業埋設管の支障移設調整が長期化し、移設工事が大幅に遅延したことで、2024年度中に工事が完了できなくなったため、2025年10月の完了を目指し進めている。 整備箇所数 0箇所	整備箇所数 0箇所	D	移設関係企業との調整、施工方法調整及び工事内容変更により更なる遅れが生じ、事業の一部を次年度以降へ分割して実施せざるを得なくなった工事があるため。		
			下水道経営総務課			河川管理者へ河川整備の促進を働きかける	・境川について、境川流域総合治水対策協議会において、整備状況を確認するとともに、河川管理者に早期整備を要望する。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会において、整備状況の確認を行う。	境川について ・境川流域総合治水対策協議会において、「2024年度境川水系流域治水プロジェクト」に関して協議し、整備状況を確認した。 ・河川管理者、関係部署に下記のとおり整備状況を確認し、早期整備を要望した。 5月：神奈川県厚木土木事務所津久井治水センター 7月：神奈川県厚木土木事務所東部センター、藤沢土木事務所 10月：神奈川県国土整備局河港課 11月：東京都建設局河川部計画課 鶴見川について ・鶴見川流域水協議会において、「2024年度鶴見川流域水マスタープラン」の推進方針を協議し、整備状況についても確認した。	・境川の整備状況の確認及び早期整備の実施要望 ・鶴見川の整備状況の確認実施	B	2024年度の整備状況及び2025年度の整備スケジュールを確認した。合わせて早期整備の実施要望を行ったため。	
			下水道管理課			雨水浸透設備設置補助件数 10件	個人住宅に対して、雨水浸透設備を設置する際に、補助金を交付し、雨水浸透設備の整備促進を図り、浸水被害の軽減に寄与する。	19件の相談を受け、詳細な説明や現地調査を行った。 その結果、個人住宅に対して、2件の補助を行った。 排水設備計画確認申請において、6336基の浸透ますの設置を指導し、1時間当たり4302m ³ /h（25mプール10個分）の雨水流出抑制に寄与した。	補助件数 2件	C	雨水浸透設備設置補助については、19件の相談を受けたが、申請は2件にとどまったため。	補助制度を利用しない排水設備計画確認申請において、浸透ます設置の指導を行った結果、4302m ³ /hの雨水流出抑制を行うことができた。

基本方針	目的	経営戦略事業 (小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度達成状況	2024年度実績	2024年度評価	2024年度評価理由	備考
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(1) 浸水対策の推進	① 浸水対策事業	下水道部全課	整備箇所数22箇所	小中学校等の施設管理者へ污水管に雨水が流れ込まないように取り組みを依頼する	6月の「浸水対策強化月間」に合わせて、市内小学校施設校庭等にある屋外流し等から雨水が浸入しないような対策を依頼する。	・6月の「浸水対策強化月間」に合わせて、市内小中学校・公共施設の屋外流し等から雨水が浸入しないよう対策を依頼した。 ・庁用車への啓発マグネット貼付や市庁舎デジタルサイネージへの掲出により、浸水対策に関する周知を行った。	・公共施設の管理者への周知 ・市民への周知	B	公共施設等の管理者を対象に浸水対策の取組を依頼したほか、市民を対象として浸水対策に関する周知を行い、目標を達成したため。	
			下水道部全課		豪雨前のパトロールの実施 2回	梅雨入り前、台風シーズン前に水路、下水道施設の点検及び清掃を行い、浸水被害の低減を図る。 2024年度は、2回パトロールを行う。	大雨や台風が予測された場合のパトロールを合計3回行い、点検清掃により浸水被害の低減を図った。	豪雨前のパトロールの実施 3回	B	予定どおり目標を達成したため。	
		下水道部全課	人命を守る犠牲者ゼロ	訓練実施回数 2回	・下水道BCP（水害編）を適切に運用する。 ・町田市総合水防訓練（図上訓練）に合わせて下水道BCP（水害編）に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 ・下水道BCP（水害編）を必要に応じて修正・更新作業を行う。	・下水道BCM部会を7回開催し、下水道BCPの運用管理を行った。 ・下水道BCP（水害編）に基づき、6月に東京消防庁と連携した合同総合水防訓練、7月に町田市総合防災訓練（図上訓練）をそれぞれ実施した。 ・部会や訓練を通して下水道BCP（水害編）を修正・更新した。	訓練実施回数 水害対応2回	B	予定どおり目標を達成したため。		
	(2) 地震対策の推進	① 成瀬クリーンセンターの耐震化	水再生センター	耐震化率81.5%	耐震化率81.5%	2023年度より引き続き汚泥処理棟の建築構造物の耐震補強工事を進める。	汚泥処理棟の建築構造物の耐震補強工事が予定どおり完了し、目標を達成した。	耐震化率81.5%	B	汚泥処理棟の建築構造物の耐震補強工事が予定どおり完了し、目標を達成したため。	
		② 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化	水再生センター	耐震化率 鶴見川CC71.2% 鶴川ポンプ場100%	耐震化率 鶴見川CC21.9% (現状値:21.9%)	2024年度より煙突基礎及び焼却炉棟の建築構造物の耐震補強工事を進める。	2024年度に耐震補強工事に着手し、煙突基礎の耐震補強工事は完了した。焼却炉棟（1号焼却炉側）の耐震補強工事は施工中である。	耐震化率21.9% (煙突は建物・土木構造物ではないため、耐震化率の変動なし)	B	煙突基礎の耐震補強工事が予定どおり完了し、目標の耐震化率を達成したため。 焼却炉棟（1号焼却炉側）の耐震補強については、入札不調により施工年度が1年後倒しになり、2025年度に完了予定。	鶴川ポンプ場（ポンプ棟）は、2029年度耐震補強工事完了予定。
		③ 汚水管の耐震化	下水道整備課	汚水管の重要な幹線等の耐震化率100% (2021年度末)	—	—	—	—	—	—	2025年度以降は、2024年度に策定した「町田市上下水道耐震化計画」及び「町田市下水道総合地震対策計画（Ⅳ期）」に基づき、地震対策を進めて行く。
④ 雨水管の耐震化	下水道整備課	雨水管の重要な幹線等の耐震化率100%	耐震診断実施 L=2.7km	・緊急輸送路などに布設され、かつ、液状化の可能性が高い雨水管の耐震化のため、雨水幹線の耐震診断実施	・計画した雨水幹線及び枝線の耐震診断は予定どおり完了 ・人孔の診断数量が当初予定より減少した分、管さよの診断延長が増加したため、目標値を上回った。 耐震診断延長 L=4.8km	累計耐震診断延長 L=12.9km	A	下水道管理課のスクリーニング調査結果の活用も含め、目標とした雨水幹線及び枝線の耐震診断延長を上回るL=4.8kmが完了したため。	2025年度以降は、2024年度に策定した「町田市上下水道耐震化計画」及び「町田市下水道総合地震対策計画（Ⅳ期）」に基づき、地震対策を進めて行く。		
⑤ 避難施設へのマンホールトイレの整備	下水道整備課	整備済み避難施設数 71施設 (2025年度末)	整備済み避難施設数 59施設	・2024年度整備予定なし 計画では71箇所全ての避難施設にマンホールトイレを整備する予定であったが、都立高校においては学校建替え等にあわせて東京都が整備することとなり、未整備の小中学校においては、学校再編に伴う建替えにあわせ整備する方針となったことから、2024年度以降において下水道部で整備するマンホールトイレは0となった。	—	—	—	—			
⑥ 下水道事業継続計画（地震編）の運用管理及び訓練の実施	下水道部全課	訓練と見直し実施	訓練実施回数 2回	・下水道BCP（地震編）を適切に運用する。 ・下水道BCP（地震編）に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 ・下水道BCP（地震編）を必要に応じて修正・更新作業を行う。	・下水道BCM部会を7回開催し、下水道BCPの運用管理を行った。 ・下水道BCP（地震編）に基づき、9月と11月に地震発生から6時間後までの初動対応、初動体制を円滑に作ることを目的とした訓練をそれぞれ実施した。 ・部会や訓練、町田市事業継続計画（地震編）の修正に伴い下水道BCP（地震編）を修正・更新した。	訓練実施回数 地震対応2回	B	予定どおり目標を達成したため。			

基本方針	目的	経営戦略事業 (小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度達成状況	2024年度実績	2024年度評価	2024年度評価理由	備考
3 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入	(1) 効率的・効果的な維持管理の推進	① 状態監視保全の維持管理	水再生センター	1) 下水処理施設の 詳細調査件数 100件以上 2) 下水道管の点検・ 調査延長542km	下水処理施設の詳細 調査件数10件以上	成瀬クリーンセンターで汚泥掻き寄せ機など5件、鶴見川クリーンセンターで反応タンク設備の送風機本体、鶴川ポンプ場で脱臭設備など5件、合計10件以上の下水処理施設の詳細調査を実施する。	成瀬クリーンセンターにて最終沈殿池設備の汚泥掻き寄せ機など5件、鶴見川クリーンセンターにて反応タンク設備の送風機本体など2件、鶴川ポンプ場で脱臭設備など3件、合計10件の下水処理施設の詳細調査を実施した。調査の結果、成瀬クリーンセンターにおいて機能が低下している設備(制御電源及び計装用電源設備)を1件、軽微な劣化が見られる設備(汚水ポンプ設備)を1件確認した。	下水処理施設の 詳細調査件数 10件	B	年度目標である詳細調査件数10件を実施し、成瀬クリーンセンターで機能低下が確認できた汚泥棟蓄電池設備の修繕と軽微な劣化が見られた水処理棟散気装置の補修を実施することで、機能回復が図られたため。鶴見川クリーンセンターでは、汚泥処理棟の蓄電池盤の基板に劣化が見られたため、2025年度に補修を実施することで、機能回復を図る予定。鶴川ポンプ場では、劣化している設備は特に見られなかった。	
			下水道管理課		調査延長 54km	「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針に基づき策定した点検・調査計画の優先順位に従って、管路施設の異常の有無を把握するため、TVカメラ調査や目視調査などの簡易的な調査を行う。 2024年度は、学園・小山ブロックの管路施設54kmの調査を行う。また、2017~2019年度に実施した簡易調査や詳細調査の分析結果を踏まえて「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針の見直しを行う。	予定どおり、TVカメラ調査、目視等の調査、評価及び分析を行い、54kmの管路施設について、劣化状況を把握することができた。 また、八潮市の道路陥没事故を受けて、市独自の緊急点検を実施した。汚水幹線かつ経過年数30年以上の管渠約58kmを対象に点検を実施し、緊急を要する異常等は発見されなかった。	調査延長 112km (うち緊急調査延長58km含む)	A	「町田市ストックマネジメント計画」に基づく調査は、予定どおり54kmを完了し、さらに緊急調査を実施した結果、目標を大幅に超えて達成することができたため。	
		② 腐食環境下にある 下水道管の点検	下水道管理課	点検箇所数294箇所	点検箇所 30箇所	下水道管の腐食が予測される箇所について、法令を遵守し定期的な点検を実施する。 2024年度は、河川部の伏せ越し及び、金井処理分区、成瀬処理分区、学園処理分区を対象に30箇所の点検を行う。	予定どおり、現場での30箇所の点検及び点検結果のまとめを行った。点検結果として、腐食による管渠の修繕対応箇所はなかった。	点検箇所 30箇所	B	予定どおり目標を達成したため。	
	③ 汚水管への浸入水対策	下水道部全課	調査地域19地域	調査地域 2地域	雨天時に浸入水の多い地区において、原因究明のため取付管TVカメラ調査、送煙調査、目視調査などによる詳細調査を行い、確認された不良箇所について改善を行っている。 2024年度は、高ヶ坂処理分区内の1地域において、管内のTVカメラ調査および送煙調査による誤接続確認を行い、原因究明と改善計画の策定を行う。 また、原町田一丁目内の雨天時浸入水が多い地域において、TVカメラ調査および送煙調査を行い、浸入箇所の特定を行う。	原町田一丁目地内及び高ヶ坂処理分区において管内のTVカメラ調査を実施した結果、浸入水の原因となる管渠の劣化を確認した。また、送煙調査により誤接続等の不良箇所も確認した。 原町田一丁目地内においては1箇所、高ヶ坂処理分区においては3箇所の誤接続が発見されたが、住民の協力により誤接続は解消された。	調査地域 2地域	B	予定どおり目標を達成したため。		
	(2) 計画的な改築更新	① 下水処理場・ポンプ場の 改築更新	水再生センター	「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新の実施	改築更新工事件数 鶴見川クリーンセンター2件	鶴見川クリーンセンター ・水処理脱臭設備工事 ・汚泥処理棟建築工事他	水処理脱臭設備工事及び汚泥処理棟建築工事は、計画どおり完了し目標を達成した。	鶴見川クリーンセンター改築更新工事 2件完了	B	予定どおり工事が完了し、目標を達成したため。	
		② 管渠の改築更新	下水道整備課		改築工事実施 汚水 L=3.5km	・「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新工事実施 汚水 L=3.5km	・計画した下水道管路の改築更新工事は概ね予定どおり完了した。 改築工事実施 汚水 L=3.4km	改築工事実施 汚水 L=3.4km	B	目標とした下水道管路改築工事の汚水L=3.4kmが完了したため。	